

活動の意欲湧く「交流学習センター」



ステージから客席を見る—大ホール



第638号
発行人 ● 豊丘村公民館 唐澤克己
編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館 編集委員会
0265-35-9066
印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
(4月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,418人
女 3,535人
総人口 6,953人
世帯数 2,059戸

新たな時代を見据え 「豊丘村交流学習センター」完成

「豊丘村交流学習センター」(正式名称)が、三月末に完成し、図書館棟を除き、いよいよ五月上旬にオープンします。図書館は、準備の都合上、七月上旬に利用開始となります。このセンターは、新たな時代を見据えた大変立派な施設であり、今後、着実に発展する村の力強いシンボルになっていくことが期待されます。

大勢で利用し 施設に魂を

交流学習センター
建設委員長
川中島敏人

歴史を感じさせる「豊丘村総合福祉センター」に替わる社会教育施設として、また、図書館を併設した社会、文化、芸術等あらゆる研鑽の拠点として、「豊丘村

交流学習センター」が、いよいよ五月初めにオープンの見通しとなりました。当施設建設に当たりましては、多くの村民の皆様が、建設場所、規模、内容について、長い間英知をまわし、完成を見ることができたと思っております。今までの施設と大きく異なり、村民が気軽に気持ちよく利用できるように、バリアフリー等を考え、平屋建てという一見贅沢にも思われる建物

自身を磨き 地域に還元

公民館長
唐澤克己

村の「交流学習センター」が完成しました。新しい公民館ができたのです。本当にありがたいことです。ここには、公民館のみでなく、教育委員会事務局もあり、図書館もあります。このセンターが、村の文化や教育の新しい拠点になるのです。このセンターができるまでには、村の理事者をはじめ、多くの方々にご尽力いただきました。厚くお礼申し上げます。また、全村民のご理解とご協力があって、

はじめて完成したものです。深く感謝申し上げます。公民館の大きな使命は、地域住民の「生きる力」を支えることにあります。そこで、その生きる力を支えるために、センターには、特に次のふたつの機能を期待したいと思います。

① 学び鍛える場

「生きる」とそのものが修行である」という言葉があります。生きていく限り、人には、常に自身を磨き、世の中を良くしたいという願望があるのです。この素晴らしい施設で行なわれるすべての活動が、有用なことを学んで自己を鍛えるものとなり、それらが地域の発展にも繋がっていくこと

② 憩い安らぐ場

新しい立派な施設ができても、それが、真に役立つものになるか否かは、結局は利用者次第です。この素晴らしい施設を心から慈しみ、そこで精魂込めて活動し、有意義に利用するならば、その効用は想像をはるかに超えたものとなります。



予約なしで使用できるオープンスペース

蔵書を有し、飯田市、高森町、松川町の各図書館を結ぶネットワークにより、カード一枚で、それらの図書館の本も借りられるようになります。新しい図書館への図書移動には、中学生にもお手伝いいただき、七月のオープンを予定しております。新しい図書館には、靴で入館でき、飲食できるコーナーも用意してあります。図書館に入ると、センターの堂々とした四本の柱に目を奪われます。しばらく眺めていると、豊丘村民としての誇りさえ感じるようになります。新聞も毎日五紙が届くようになっております。今まではあまり図書館に足を運ばなかった方も、これを機会に本を手にとられたらいいでしょうか。「豊丘村交流学習センター」が完成し、オープンの暁には、関係職員の皆様には、今まで以上に村民と向き合っていたいただきたいと思っております。また、村民の皆さんには、ぜひ元気で、大勢の方々に利用していただき、施設に魂を入れていただきたいと願っております。

段立

春にむけての暖かさとともに「豊丘村交流学習センター」の外まわりを覆っていた足場がはずされ、建物が見えるようになってきました。アイボリーの壁と大きなガラス窓、高い天井、明るく開放感にあふれた外観、いよいよ完成です。図書館はこれからがたいへんで、書籍五万七千冊のひっこしです。書棚に配架していき、落ちつくまでは移動のくりかえしです。ひとまず落ちついたら、蔵書点検を行ないます。利用者の方の「少しさみしいけどがんばって。楽しみにしているよ」の声を待ちながら荷作り中です。公民図書館は、住民の生活や仕事に役立つ施設としてつくられています。地域の人々が知りたい、欲しいと思ったときに図書館へ行けば資料や本、知識、情報が容易に手に入る、地域の情報センターになりたいと思っております。しかし、今の図書館は郷土資料が少ないのも事実です。新しく出版される本は購入できません。古くつたり個人出版されたような本はなかなか手に入りません。郷土資料の寄贈は受け付けています。気軽に声をかけて下さい。それらが夏休みの子供たちの宿題の手助けになるかもしれません。村図書館、学校図書館、資料館が連携していければ良いと思います。開館までもう少しお待ち下さい。

(正木淳子)

衆智を集め立派な施設に

— 交流学習センターの概要と建設の経過 —

教育委員会事務局局長
阿部 繁

交流学習センターは、震災関連の復興工事・消費税増税による駆け込み工事が集中する中、年度内完成をすることができました。これも設計監理・建築、電気機械各施工業者の皆さんのご尽力の賜物と感謝しています。

完成した建物は、延べ床面積、約2,800㎡で、現在の福祉センターと図書館面積の倍以上の広さとなります。

建物は、社会教育棟と図書館棟の2つに分かれ、構造は鉄骨造。図書館部分の階は、新しいリサイクルセンターと倉庫になります。建物内は、一部を除いて靴のまま入れるバリアフリー

となっております。

建物に入るとまず、広大なオープンスペースが迎えてくれます。オープンスペースは長さ約33m、幅7mあり、自由に飲食できる村民憩いの場所となります。

またホール側壁面は作品展示できる大きな展示ケースが設置されています。入口左側が事務室で、右側は、小人数会議に使いやすい多目的ルームと料理講習室。

一番大きなホールは約270人収容でき、二つの控室を配置しました。大きなステージと音響特性の良い美しいホールに仕上がりました。

利用率の高い研修室は三部屋、和室は十五畳二間が配置されています。図書館は、天井が高く開

放感があり、幼児コーナー

お話の部屋、軽飲食や談話ができるサロンスペースが配置されています。蔵書数は五万七千冊です。

今後の日程は、五月上旬までに引越作業を行い、新しい施設で業務を開始します。

業務開始後に、福祉センター・旧有線事務所を解体し、駐車場(80台収容・敷地内道路を含めた外構工事に着手します。

【建設の経過】

●平成十八年「豊丘村づくり委員会」、平成十九年「庁舎周辺総合検討委員会」、平成二十一年「文化施設建設準備委員会」の検討を経て、「福祉センターに代わるもの(ホールを含む)」と図書館を旧役場跡地

に建設する」と方向付けられる。

23年8月 村内一級建築士連合から基本構想図案提出

23年9月 庁内検討委員会設置
基本方針検討・作成

23年12月 先進地視察(安曇野市豊科・松川村)

24年3月

24年5月 基本構想(素案)完成
24年6月 社会教育施設建設工事地元説明会
24年7月5日 基本構想についてのパブリックコメント募集(村民意見公募制度)

実施。八件の意見

24年9月 設計入札。柏・梓設計
共同企業体に決定

24年11月 庁内関係課全体打合せ
24年12月 建設委員会での平面図の検討。実施設計に着手

25年7月 建設業者入札
25年7月18日 臨時議会で建設請負業者決定

25年7月31日 建築・神稲・丸三建設
特定共同企業体、電気設備工事・土屋電気(株)、
機械設備・三笠設備(株)
25年7月31日 起工式・安全祈願祭
26年3月31日 建築・電気設備・機械設備工事完成



天竜川に面して建つ築堤記念碑

史学会コーナー

郷土の遺産 シリーズ(40)

田村新田築堤記念碑

北市場三
木下正道

明神橋から堤防を上流に向かい、森谷線と交わる角に立っているのが田村新田築堤記念碑である。天竜川に面し豊丘村を形成する河野、田村、林、伴野の各堤防がある中で、完成までに最も長い歳月をかけて造られたのが田村堤防である。今日、この堤防の中に、豊丘村の行政の中枢機関と多くの人家がある。

治水堤防と新田開発に関わる護岸堤防建設願いを県に提出したのは、明治二十八年である。明治二十九年から始まった築堤工事は菅部川尻より二〇〇間、明治三十六年から一六〇間、大正十二年から六〇間、昭和三年から六三間、昭和八年から十二年に一〇九間が完了し、昭和四十二年の強化工事をもって築堤記念碑が建立された。建設開始から実に七十四年の長き事業であった。特に、菅部川尻より下流に四二〇間(七五六巴

に積まれた石は、菅部川の1km位上流にあった十二天の滝とその付近の大岩盤を爆破で爆破し、石積向きに加工し、トロツコレールを敷設してトロツコに載せて搬出したものであって、そのため、十二天のお滝の姿が変わり、なくなってしまうといわれている。百年に一度といわれた三六災害時には、北市場三自治会のほとんどの住宅は、床上浸水をはじめ、床上浸水の被害を受けた。しかし、洪水の原因は、山林崩壊の土砂で

菅部川が埋まり、溢れ出た水が田村新田内に流れ、住宅に浸水したのであって、天竜川からは一滴の水も入らなかった。鉄骨橋であった二代目明神橋に波が当たり始めたために通行を一時止めたほどの大洪水を、建設当時の石積堤防が完璧に防ぎ、田村新田内の命と財産を守ったのである。

三六災害の土砂で一時川底が上昇したが、建設工事用砂利の需要により搬出されたのと、上流域のダム建設や山林砂防工事の強化により土砂の流入が少なく

なり、逆に川底が深くなってきている。深く床掘された根補強工事、その上にコンクリートの消波ブロック、当時の石積、さらに、かさ上げされ拡張された堤防の姿からは、当時とは想像もできないくらい強固に補強されている。田村新田築堤

記念碑は、後世の人々が、今日安心安全な生活を送ることができると感謝し、七十四年の長きにわたり粒々辛苦を重ねて建設に携わった先人の心を忘れてはならないと願って建てた記念碑である。

① 一間は約一・八二巴

交流学習センター・図書館 とともに電話番号変わらさず 新施設の利用について

新施設の地番や電話番号等、連絡先をお知らせします。大勢の皆さんのご利用をよろしく願います。

より多くの方に
より使いやすく
公民館事務局
原 みほ子

交流学習センターは「地域住民の交流、社会参加の促進、学習及び自主的活動の向上を図るための拠点」として建設されました。前身の福祉センター同様に、

『公民館』 三五九〇五三
『公民館』 三五九〇六六
『ファックス』 三五二九三八
で福祉センター時代と変わ

村民の皆さまに親しまれ、誰もが気軽に集まれる憩いの場となるよう、職員一同気持ちよく迎えたいと思っております。

出会い、こぼれ話

章平先生の — 赴任旅費 —

毛 涯 章 平

私が現職の頃、就職二ヶ月近くたつと、職場では赴任旅費が話題になった。「引越しのトラック代ぐらい出そうだ」と皮算用をし合う先輩もいた。そのころは初任給が七〇円ほどで、何やかやと天引きされると手取り六〇円程度であった。

一人になって袋を開けてみると、中には一〇円札が九枚と四五銭入っていた。その夜は、当時の私にとっては大金の九〇円の使い道をあれこれ考えた。自分の本も筆も墨も紙も欲しかった。しかし最後にもう一〇円足して全部父母に差し上げることにした。

考えてみれば、いままで年老いた父母にずいぶん厄介をかけてきたものである。苦しい家計をやりくりしながら私を卒業させてくれたのである。土曜日になると、私は急いで家に帰った。そしてお

集いで 楽しんで 日々の活動に

平成26年度公民館事業

今年度の公民館事業の概要は下記の通りです。施設が新しくなり、従来から続いていた活動も、創意と工夫次第では、一層の充実が期待されます。また、新施設の使用に慣れるにつれ、新しい企画も生まれてきそうです。公民館グループの活動も、新施設の活用で、ますます活況を呈するのではないのでしょうか。

【文化系】

◆公民館学習会

六月よりスタートします。予定表は、五月に配布いたします。

◆人形劇豊丘公演

人形劇団「ばんび」による楽しい人形劇公演です。一日二回の公演になります。

◆文化事業

とよおかコンサート
「サクソフォンカルテット桜」
(十月二十五日)

◆文化祭・作品展

公民館グループの一年間の力作をどうぞご覧ください。
(十一月二日〜九日)

◆ステージ発表

歌、ダンス、舞踊、演奏等多彩な発表をお楽しみください。
(十一月八・九日)

◆成人式

約九十名の若者が成人を迎えます。
(二月三日)

◆ふるさと探訪史跡めぐり

私たちのふるさと、豊丘村の歴史を学びましょう。
(時期未定)

◆ふるさと見て歩き

まだ「新九郎の滝」をご覧になっていない方、また行きたいという方、振るってご参加ください。
(時期未定)

◆親子セミナー

保育園児・小学生の親子向けセミナーです。親子でいろいろな体験をしましょう。

◆武田信玄のろし上げ

飯田下伊那地方のあちこちからリレー式にのろしが上がります。是非ご参加を。
(九月六日)

【スポーツ系】

◆梶市町村対抗伝大会

(四月二十九日/松本)

◆村民ゴルフ大会

(六月十一日/高森CC)

◆公民館ゲートボール大会

(六月)

◆夜間ソフトバレーボール大会

(七月〜十月)

◆分館対抗球技大会

(八月十五日)

◆二十四時間ソフトボール大会

(八月二十三〜二十四日)

◆だんQくん健康ウォーキング

(十月十三日)

◆豊丘村伝大会

(十一月二十三日)

◆冬季レクリエーション大会

(二月十一日)

【その他事業】

◆とよおか四季大学

ふるさと大使丸山克俊先生が実行委員長を務める、年四回のめったに受講できない講座です。

◆交流学習センターのグラウンドオープン

は十月ころです。



転入された先生の紹介—豊丘中入学式

転出・退職

◇南小学校

塩尻 浩子 千代小へ
林 宏美 高森南小へ
武田 信孝 三穂小へ
柴田 勝幸 高丘小(中野市)へ
大澤美奈子 伊賀良小へ
永峯 未葵 中洲小(諏訪市)へ

◇北小学校

馬場 長光 座光寺小へ
宮内 春夫 高陵中へ
筒井 陽子 伊賀良小へ
窪田 訓子 緑ヶ丘中へ
◇中学校
大槻 尚 長谷中(伊那市)へ
小林 恭恵 上田養護学校(上田市)へ
高坂みどり 高陵中へ
濱島 健太 波田小(松本市)へ

◇南小学校

近松志津夫 丸山小より
土井田和紀 根羽小より
篠田 淳 和合小より
板山 千夏 白馬中(白馬村)より
宮尾菜々美 小諸東小(小諸市)より
布山 朋和 新規採用
北原 和世 伊賀良小より
吉沢 公子 竜丘小より
唐沢 美子 下條小より

◇北小学校

橋本 雅裕 和田小より
夏目 昌典 新規採用
鈴木 彩真 新規採用
市瀬恵理子 豊丘南小より
田中美代子 緑ヶ丘中より
唐沢 美子 下條小より
◇中学校
宮澤 彩 裾花中(長野市)より
小林 和仁 鎌田中(松本市)より
平野 彰子 鼎中より
洞口 淳 小海中(小海町)より
附田 賢一 新任
荻原 健太 新任
木下 真澄 竜丘小より

「凡事」をやりとげることが大切

教育長、インタビューで基本理念語る

館報三月号(六三七号)三面の「村民広場」の記事に関連して、筒井良二教育長が、日下部富次さんのインタビューに答え、教育の基本理念を語りました。学校の部活動のあり方のみでなく、教育全般のあるべき姿を考えていくうえで、大変参考になります。

昨年末、長野県教委は「中学校の朝の部活動(朝練)原則禁止」の方針を出しましたが、これについて様々な波紋が広がっています。そこで豊丘村ではどのように考えているか筒井教育長にインタビューをしました。

県教委の朝練廃止の方針についてどう考え、どう対処されますか。

まず、一校だけで先走りしてもチグハグになってしまふので、当面は今のまま実施し、飯伊教委連絡協議会や飯伊校長会の方針、豊丘中学校長との話し合い等を通して、調和のとれた結論を出す。

こうした話し合いの基本となる考えは、「早寝早起き朝ごはん」の生活の基本をふまえ、生活リズムを大切に考えていきたい。このリズムを作り出すのは、子どもだけでなく、家庭の協力が重要となるので、村(社会全体)を挙げて考えていきたい。例えば、各家庭においても朝練を行なうことで早起する為に早く寝る。その為にはやるべきことを要領よく手早く行なうなど、プラス面が大きいと思う。

朝練を行なうことにより学力が低下するという意見もあるが。

学力は全国一斉学力テスト、と考えれば全国平均とほぼ同じだが、県・村ともに徐々に向上している。ただ、テストの前の事前学習など行なっている県などがある。そうした所はやや高い。

しかし、学力とはテストの点数だけでなく、究極は「凡事」をやりとげることが大切か。

学校教育と社会教育とは区別して考え、はじめをつける必要があると思う。

教育長のお話をお聞きし、お考えにぶれがなく、しかも他との調和を保って豊丘村の教育を健全な方向に進めようと思われているのが伺われました。

更にこの確固たる信念を飯伊教育長会などに反映し、豊丘の教育のみならず、飯伊全体の教育向上の原動力となつて頂けるよう期待します。



それぞれの熱き思いにインタビューも盛り上がり

部活動と社会体育との関係も難しい問題だと思いますが、どのようにお考えですか。

【日下部 富次】

村内三校に対する厚い信頼感が言葉の端々から滲み出ていました。

追記

教育も朝の部活の問題だけでなく、全てが係わり合つてこそ成果が上がるのだと改めて感じました。

追記

追記

初心忘れず全力投球で

平成26年度公民館役職員

- 【本部】
 公民館長 唐澤 克己
 社会教育係長 原 みほ子
 公民館主事 元島 将太
 図書館司書 松下 佑子
 【社会教育委員】
 貝原 豪 森田 恵子
 寺澤 愛子 原 国人
- 松澤 郷子(北小学校長)
 【公民館運営審議会委員】
 毛涯 雅明(二分館)
 唐澤 啓六(二分館)
 佐々木 寛(三分館)
 菅沼 壮平(四分館)
 堀本 明一(五分館)
 小石峯 保(六分館)
- 壬生 保(七分館)
 松澤 郷子(小中学校)
 市沢 克彦(P.T.A.)
 吉川 彰(J.A.)
 三石 勝雄(区長会)
 玉本 圭一(商工会)
 壬生美佐子(女団連)
 林 清光(勤労協)
 貝原 豪(社教委)
- 【編集委員】
 壬生 雅穂 鹿角 勝二
 日下部富次 正木 淳子
 齋藤 弘昭 桐崎 長一
 古田 迪子 吉川 士郎
 吉田 裕
- 【図書司書】
 原 明美 石川 正義
 【スポーツ推進委員】
 酒井 浩文 吉田みき子
 吉川 康子
- 【分館長】
 1 越野清司 2 曾田 勝
 3 原 和夫 4 原 博文
 5 福島昭治 6 唐澤 伸
 7 高田晴仁
- 【分館主事】
 1 大原真一 2 福澤信広
 3 片桐繁和 4 桶 淳一
 5 小椋 司 6 唐沢伸彦
 7 高田明臣
- 【社会部】
 1 平 哲聡 2 田畑孝宏
 3 松井直子 4 吉川士郎
 5 三澤 学 6 井上時満
 7 熊谷 雄
- 【図書部】
 1 久保田和義 2 木下克朗
 3 前野博司 4 熊谷由子
 5 武田愛理 6 北澤功治
 7 月木仁司
- 【体育部】
 1 小澤孝光 2 今村公彦
 3 原 直樹 4 元島功雄
 5 松下浩之 6 小石峯誠
 7 木下和章

新年度の人事異動で 公民館主事が交代

活気ある 公民館に!

新公民館主事 元島将太



お世話になっております。この度の人事異動で公民館主事となりました元島将太

と申します。公民館の魅力を感じていただけたら幸いです。

公民館も新しくなり、今まで以上に公民館を利用される方も増え、交流や学習の機会が多くなると思います。一人でも多くの方々に私の顔を覚えていただき、今まで以上に公民館活動を展開してまいります。

初めのうちは皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかとありますが、全身全霊で公民館主事の仕事を全ういたしますので、何卒よろしくお願い致します。

公民館活動とは

前公民館主事 辻元慎二

五年半という長い間、教育委員会関係団体の皆様、また、公民館関係団体の皆様方には、多大なるお力添えをいただき、様々な事業を実施することが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、公民館主事として配属され、当初は公民館という言葉は知っていても、何をしていたらいいのか、わからず、右往左往する毎日でした。

各分館や各団体の皆様と活動していく中で、公民館活動というものは、誰かに言われ行動するものではなく、自らがしたいと思える活動を実践していく場なのだと感じました。

人と人がつながり、地域と地域がつながって、初めて一つの事業が完成します。

公民館が地域づくりの拠点として、益々発展していくことを期待し、退任のあいさつとさせていただきます。



蝶と付き合ひ始めて六三年。しかし、ここ数年は本気ではない。ただ、「温室効果ガス(CO2)の増加」が「地球温暖化」の原因となり、「異常気象」を引き起こし、「生物相への影響が心配される」と、まことしやかに説明されていることが気になる。自分自身の体験を通して確かめたい。

ここに紹介したスギタニルシジミは3/28(記録は3/26)日から二日遅い。ちなみにコツバメは3/29(記録は3/24)だから五日遅い。4/7現在、確認できた十六種すべてが記録より遅い。

この照合作業で、それこそ、すべての種で、初見日が早まった時、私は実感として「地球温暖化」を理解するのだろうか。

写真提供：四方圭一郎氏

(山田 拓)

俳句 短歌

啓蟄や緋鯉ひらりと背を見せる
 衣擦れの纏わりつくや女正月
 春光下雛おのにも百の黙
 荒畑一面さみし犬ふぐり
 介護所の庭の萌え立ち童歌
 節明けに宵の明星鬼面山
 雪の駒近くし模型機翻る
 残雪や幹伸びやかに雑木山
 P.M.二・五隣国公書朧かな
 のどけしや村里をゆく担ぎ獅子
 冬鳥の荒ぶ天龍川住処とす
 段丘の野焼の跡や鳥鳴きて
 新図書館の一枚ガラス冴返る
 雪無限のちひとつつを持ち歩く(北海道)

中山 寿子
磯部セツ子
田中 静
竹村 茜
片桐 洋子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
和地 睦夫
宮下 公
宮下 純子
丸山 時子
林 恵美子
北原 昭子

桜咲く三月となり婚礼を祝うが如く晴れし祝日
 松島 八重
 精農の亡夫でありしが言うたろう「待った。息子は農地を換えんとするか
 紅 梅
 かげろるか紅梅か色のかすみ見ゆ朝に夕べに吾が目うたがう
 織田大原
 静まれる御堂に和讃流るなか四十三回忌の夫と向き合う
 河原 梨花
 ちちははの墓は暖めり梅の花散りくるいくひら手の平に受く
 吉沢 新子

「あしたは短歌会」
 はらはらと弥生の空に降る雪の時にやさしくときに冷たく
 北澤 秀子
 高台に登りて見たる記憶あり飯田の大火を今も忘れず
 壬生 千春
 「おはよう」の声に家族の体調を確かめ会いて一日始まる
 毛涯百合子
 健やかさ自慢をしつつ四姉妹伊勢の宿にてカラオケに酔う
 大倉 知江

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「花」 互選
 演技力花形選手目を奪う 安田 喜子
 八十路来てもう一花と夢を持ち 福沢 勝美
 急逝の友の遺影を埋める花 桃沢 健介

▼課題「水」 互選
 溪流に釣人の影水温む 吉川 燎
 人類は牙むく水も忘れない 林 桃子
 守りたい青い地球は水の星 喜寿 喜多

▼自由吟 桃沢健介選
 東北に安全の意味教えられ 久保ひろし
 やっと春窓全開に空気飲む 宇井恵美子
 深刻な農廃業へ雪被害 原 美風
 大雪で隣近所の支え合い 西元 峯子
 軸吟：クリミアの火種世界の危機新た

~シリーズ~ 豊丘の自然 No.126 スギタニルシジミ (シジミチョウ科)



写真提供：四方圭一郎氏